

音楽科学習指導案

題材名「いろいろな音色を感じ取ろう」

〔学指要領：A 表現(3)音楽づくりア(イ)、イ(イ)、ウ(イ)、共通事項(1)ア〕

令和5年〇月〇日(〇) 第5校時 第一音楽室、第二音楽室
館林市立第一小学校 〇年〇組 指導者 〇〇 〇〇

I 題材の構想

1 題材の目標及び児童の実態

	目 標	児童の実態
知識及び技能	・音色、リズム、音の重なりなどと曲想の関わりを理解するとともに、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付ける。	
思考力、判断力、表現力等	・音色、リズム、音の重なりなどを聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。	
学びに向かう力、人間性等	・打楽器の音色やリズムを組み合わせさせて音楽をつくる学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組むとともに、打楽器のリズムアンサンブルに親しむ。	

2 評価規準

知識・技能	①リズムのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解している。 ②思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けてリズムアンサンブルをつくっている。
思考・判断・表現	①打楽器の音色やリズム、音の重なり、反復、呼びかけとこたえ、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。
主体的に学習に取り組む態度	①打楽器の音色の組合せやリズムの重ね方に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

3 指導及び評価、ICT 活用の計画 ※別紙参照

4 教材の価値

リズムアンサンブルは、反復、呼びかけとこたえ、変化などの音楽の仕組みを生かして、リズムのつなげ方や重ね方を試しながら音を音楽へと構成していく。6種類のリズムパターンは、それぞれ特徴が異なるため、音楽の仕組みを生かした表現を様々に試行しやすい。試行を繰り返す中で、音楽の仕組みの働きの面白さを理解し、表現したい思いや意図をもつことができるとともに、音楽の仕組みとその働きがもたらすイメージとの関わりに着目しながら表現を工夫したり、練り上げたりすることができる。また、自らの表現の工夫点について説明したり、聴き手が表現の工夫について気付いたことを発言したりすることで、聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けて伝え合うことができる。さらに、登校時や放課後などの学校生活の場面をテーマとして設定し、表現を探る手掛かりにすることで、思いや意図に合った表現にするために必要な音楽の仕組みを選択しながら、まとまりのある音楽をつくる力を養うことができる。

II 本時の学習 (3/5)

1 ねらい 音楽の仕組みの働きを生かし、リズムのつなげ方や重ね方を工夫してリズムアンサンブルをつくることを通して、どのように自分たちのイメージに合った音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

2 展開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 予想される児童の反応【S】	主な発問 ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(15分)</p> <p>＜めあて＞ 音楽の仕組みの働きを生かしたつなげ方や重ね方を工夫して、自分たちのイメージに合ったリズムアンサンブルをつくらう。</p> <p>S:リズムをつなげたり重ねたりすると、雰囲気が変わって面白いな。登校時の様子を表すには、音楽の仕組みの中からどれを選んだらいいかな。</p>	<p>○6種類のリズムの特徴や面白さを想起することができるように、手拍子でリズムを打ったり即興的にリズムをつなげたり重ねたりする表現から、感じ取ったことを問いかける。</p> <p>○自分たちのイメージと音楽の仕組みの働きとを結び付けることができるように、「増える・減る」(音の重なり)「くり返し」「呼びかけとこたえ」の絵カードと、その働きから感じ取った児童のイメージを関連付けて板書する。</p>
<p>2 音楽の仕組みの働きを生かして、グループでイメージに合ったリズムアンサンブルをつくる。(20分)</p> <p>【★共同編集】【★録画・再生】</p> <p>S:「始め」は朝の誰もいない教室だから、音が何もなくて、一人ずつずらして重ねてみたら、だんだん友達が増えていく感じが表せそうだな。</p> <p>S:「終わり」はみんなが教室にそろってから、全員のリズムを一斉に重ねてにぎやかな感じにするという友達のアイデアを試してみよう。</p> <p>S:録音して確認してみたら、全員のリズムを一斉に重ねたところは、にぎやかな感じが出せたように感じるね。もっとにぎやかな様子が伝わるようにできないかな。</p> <p>○中間発表をする。</p> <p>S:同じリズムの組合せでも、使う音楽の仕組みを変えることで、伝わるイメージも変わるのだな。</p> <p>S:○○さんのグループは呼びかけとこたえを繰り返し使って目立たせていたね。自分たちのグループでも強調したい部分に「くり返し」を取り入れてみたら、自分たちが表したい様子がもっと伝わるようにつくれそうだな。試してみよう。</p> <p>S:「くり返し」を取り入れたら、「終わり」の部分がさっきよりもにぎやかに表すことができたね。</p>	<p>○まとまりを意識したリズムアンサンブルをつくることができるように、「始め」「中」「終わり」に分けてつくるよう助言する。</p> <p>○つなげ方や重ね方を視覚的に捉えて表現を試行することができるように、端末上の色分けした付箋を操作しながらつくっていくよう促す。【★配布】</p> <p>○自分たちのイメージと音楽の仕組みの働きの関連を確かめることができるように、リズムの組合せの理由を問いかける。</p> <p>○イメージに合った表現に向かって、つなげ方や重ね方を検討することができるように、録音、再生して表現を確かめるよう促す。</p> <p>○他のグループの発表から、表現のヒントを得られるように、いくつかのグループの表現を意図的に紹介し、表現の工夫点についてイメージと関連付けて問いかける。【★一覧表示】</p> <p>◆評価項目(思①) ワークシートの記述内容から、「リズムや音の重なり、くり返し、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、リズムのつなげ方や重ね方を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっているか」を評価する。</p>
<p>3 本時のまとめをし、学習内容の振り返りをする。(10分)</p> <p>【★保存・提出】</p> <p>＜まとめ＞ 音楽の仕組みの働きを生かしてリズムのつなげ方や重ね方を工夫すると、伝えたいイメージを膨らませたり、自分たちのイメージが相手に伝わりやすくなったりする。</p> <p>＜振り返り＞ S:朝の誰もいない教室にみんながどんどん登校してきて教室の中がにぎやかになっていく感じにしたかったので、最後に向かって一人ずつずらして重ねていくようにした。「中」は、呼びかけとこたえをくり返し使って、友達や先生とあいさつをしたり話をしたりしているイメージを強調して伝えられるようにした。イメージがより伝わる音楽がつけられるように、次の時間は楽器を使って音色を工夫してみたい。</p>	<p>○自分たちのリズムアンサンブルへの思いや意図をさらに膨らますことができるように、音楽の仕組みの働きを生かしてリズムのつなげ方や重ね方を工夫できたことを称賛する。</p> <p>○次時では、打楽器の音色や音の響きに注目して演奏するという見通しをもつことができるように、楽器を使った演奏による、教師がつくったリズムアンサンブルの音源を再生する。</p>

(別紙)

3 指導及び評価、ICT 活用の計画 (全5時間: 本時第3時)

※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	主
1	<p>・ 6種類のリズムを手拍子で打ったり、即興的につなげたり重ねたりした時に生まれるよさや面白さを感じ取りながら、リズムアンサンブルのイメージを膨らませ、題材の課題を把握する。(あ)</p> <p>題材の課題 リズムの特徴や音楽の仕組みを生かして、自分たちのリズムアンサンブルをつくろう。</p>	●		①
2	<p>・ 自分たちのリズムアンサンブルのイメージを話し合っで決め、イメージに合ったリズムを選択する。(あ)</p>	②	①	
3	<p>・ 音楽の仕組みを生かしたリズムのつなげ方や重ね方を工夫して、自分たちのイメージに合ったリズムアンサンブルをつくる。(あ)</p>	②	●	
4	<p>・ 打楽器の音色や音の響きに着目し、自分たちのリズムアンサンブルのイメージに合う楽器を選択して演奏する。(あ)</p>	②	●	
5	<p>・ 完成したリズムアンサンブルを互いに聴き合い、音楽の仕組みを生かしたリズムのつなげ方や重ね方のよさや面白さを発表し、題材全体の振り返りをする。(あ)</p>	②		●

*活用する学習支援ソフト等:(あ) ロイロノート